

体育科

「わかる」「できる」を繰り返しながら、自信をもって運動に取り組む児童を育てる指導の工夫

○主題設定の理由について < 紀要 p 1 3 1 >

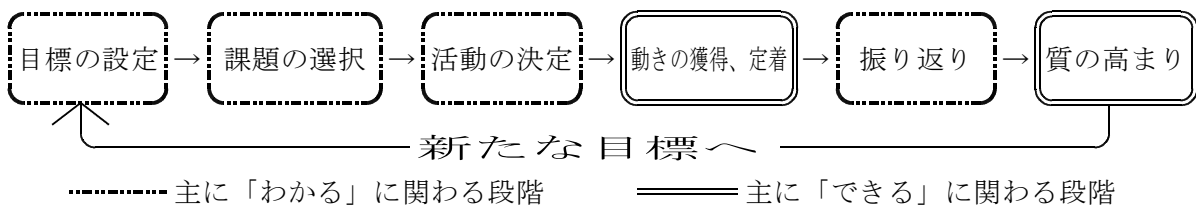
- ・本校児童の実態から
- ・これまでの体育科の研究から

○体育科で目指す児童像について < 紀要 p 1 3 2 >

- ・適切な課題を把握できる児童
- ・動きを獲得、定着し、質を高めていくことができる児童
- ・効果的な振り返りができる児童

授業場面における「わかる」「できる」を繰り返している具体的な姿を「課題解決サイクル」として以下のようにとらえ、このサイクルを行う児童を育てることを目指した。

< 課題解決サイクル >



○本校研究主題との関わりについて < 紀要 p 1 3 3 >

- ・「水平思考」 --- どうしたらその運動ができるようになるのかについて、多様な視点で考えていくこと。
- ・「垂直思考」 --- 課題を明確な根拠をもって選択し、試行錯誤を繰り返しながら、動きを高めていくこと。

以下、本校体育科が目指す「課題解決サイクル」と「水平思考」、「垂直思考」との関わりを、「ボール運動」領域を例に具体的に示す。

・ゲームに勝つために必要な要素を個人技能、集団技能、チームワークなど多様な視点から考える。

・自分に合った課題やチームに合った作戦、それに応じた活動の場を選択、決定する。
・課題を達成するために、繰り返し練習する。
・ゲームの結果から自分の課題やチームの作戦が適しているかを考える。

・自分に合ったより質の高い課題を考えたり、自分たちのチームに合ったより高度な作戦を考えたりする。

水平思考



垂直思考



水平思考

○ 主題にせまるための視点と本日の提案授業との関わり < 紀要 p 1 3 3 >

視点1 適切な課題を把握するための工夫

< 手立て >

① 発達の段階を踏まえた学習課題の設定 ② 知識の獲得と共有化 ③ コツやポイントの言語化、イメージ化

- ・ 2年2組：既習事項の中から、「遠くへ投げる」という条件設定の下、適切な投動作を選択できるようにする。その際、低学年という発達の段階を踏まえ、よい動きの可視化や言語化を図り、動きをイメージしやすいようにする。
- ・ 4年1組：ターザンランド、バランスランドともに本時までには児童が見付けたよい動きを具体的にイメージできるように、可視化を図る。そして、その動きを生かしてゲームを行うことを全体で共有できるようにする。
- ・ 4年3組：ジャンピングランドにおいて、児童に気付かせたいポイントを可視化して提示したり、言語化したりして、全体で共有できるようにする。
- ・ 5年1組：単元の初めに実施した「体力診断テスト」の結果を基に、自分の体力を適切に把握し、自分に合った条件を本時の課題として設定できるようにする。

視点2 動きを獲得、定着し、質を高めるための工夫

< 手立て >

① 運動の基礎となる感覚づくり ② 運動量の確保
③ 目指す動きの重点化、焦点化 ④ スモールステップの設定とステップに対応した場づくり

- ・ 2年2組、5年1組：各運動において、スモールステップを設定することで、動きの獲得や質の向上を図るようにする。
※ 2年2組：「投げっこリレー」
※ 5年1組：「ダブルダッチ」「玉落とし」「メディシンボール」「雲梯足上げ」「腕立て」
- ・ 4年1組、4年3組：各運動において、目指すべき動きの重点化を図るようにする。
※ 4年1組：「グループ全員での跳び箱への安定した着地」「視線」「体を使ったバランス保持」
※ 4年3組：「跳び箱への安全な着地」

視点3 効果的な振り返りをするための工夫

< 手立て >

① 可視化による振り返り ② 評価規準の明確化 ③ 適切かつ迅速なフィードバック

- ・ 2年2組：タブレット型端末でよい動きを記録することで、個に応じた指導や、次時への課題提示に生かせるようにする。
- ・ 4年1組 4年3組：本時のねらいに沿ったよい動きをタブレット型端末で記録し、本時のまとめや次時への課題提示に生かせるようにする。
- ・ 5年1組：個人の記録の数値化を図り、自分の体力の高まりを実感できるようにする。
- ・ 全授業：よい動きや考え、工夫した動きを見付けたら、その場で称賛したり、価値付けたりして全体に広められるようにする。